

# みどりの通信

西北地域県民局  
地域農林水産部  
農業普及振興室

五所川原市栄町10  
電話0173-34-2111(代)

分 室

つがる市木造桜木9-1  
電話0173-42-2222

本誌では、農業普及振興室の令和4年度重点普及指導計画(6課題)の取組結果を主体に紹介します。

## 1 品種特性を発揮する「青天の霹靂」及び「はれわたり」の高品質・安定生産

「青天の霹靂」は、全国に通用するブランド米として年々評価が高まり、順調に販売されています。さらに、令和5年産から新品種「はれわたり」が本格デビューを予定していることから、西北地域「青天の霹靂」・「はれわたり」生産指導プロジェクトチーム（PT）による生産指導を展開しています。

<取組の結果>

- ① PTでは、指導拠点ほの設置、夏季研修会、現地講習会等の開催により関係機関や生産者と情報共有を図りました。
- ② 「青天の霹靂」新規作付者及び前年産の出荷基準未達成者等に対し、適切な肥培管理について個別指導したほか、「青天ナビ」を活用し、適期追肥・適期刈取を指導しました。その結果、「青天の霹靂」新規作付者の出荷基準達成率は89%で、目標の90%を概ね達成しました。
- ③ 「はれわたり」指導拠点ほ担当農家に対して、品種特性に応じた栽培管理を指導するとともに、指導拠点ほで研修会を開催し、生産者に対して品種特性を周知しました。



「はれわたり」指導現地研修会

## 2 スマート農業を活用した大規模稲作省力低コスト技術の普及

当地域では、大区画ほ場整備とともに、人工衛星の位置情報を補正し、高精度に利用するための固定基地局（RTK-GNSS）の設置が進んでいることから、これらを活用したスマート農業一貫作業体系の実践による経営面の検証やスマート農業機械導入の啓発により、省力・低コストでかつ高品質生産技術の普及拡大を図っています。

<取組の結果>

- ① 西北型水田農業推進協議会を開催し、スマート農業推進の取組内容の確認や情報共有を行いました。
- ② スマート農業一貫作業体系実践モデルの農機稼働時間、作業時間、経営データを収集検証したところ、10a当たり労働時間は、導入前と比べ25%減の10.8時間と省力化が実証されました。
- ③ スマート農業実演会や研修会を開催し、延べ139名に対して、自動化農機の利用方法(RTK基地局の利用)・省力化・作業性・軽労化やスマート農業技術導入の効果・考え方を説明し、生産者の理解が深まりました。



ロボットトラクタによる大豆は種実演会

### 3 中小規模稲作経営体への高収益野菜導入による複合経営の普及

中泊町十三湖地区の中小規模稲作経営体では、米価下落を見据え複合経営を進めていく必要があるものの、高収益作物である野菜導入が進んでいない状況です。

その要因の一つとして、野菜導入時の作業時間や収益性への不安があげられたことから、野菜の普及展示ほを設置し、省力化技術の実証を行うとともに、稲作と組み合わせた場合の作業時間、収益性や実践事例を周知し、普及拡大に向けた取組みを行っています。

#### <取組の結果>

- ① 西北型水田農業推進協議会を開催し、中泊町をはじめとした水田地帯で野菜の導入を推進するための戦略を策定しました。
- ② ブロッコリーとにんにくの普及展示ほを設置するとともに、現地検討会やドローンでの薬剤散布実演会を開催し、作付体系や作業の省力化、防除効果を検討しました。
- ③ 「水田への野菜導入セミナー」を開催し、普及展示ほの実証試験結果や複合経営に取り組む農業者の実践的な事例発表、他道県の優良産地の取組を紹介することにより、野菜導入を働きかけました。
- ④ これらの取組により、野菜導入経営体数が8戸から11戸に増加しました。



ドローンによるにんにくへの薬剤散布実演

### 4 水稻育苗ハウスを活用した「シャインマスカット」の生産拡大

西北地域のなかでも、稲作単一経営体の割合が高く、水稻と高収益作物を組み合わせ、安定した複合経営の確立を目指している中泊町の生産者を対象に、水稻育苗ハウスを活用した「シャインマスカット」の生産拡大に取り組んでいます。

中泊町では、ほとんどの生産者がぶどう栽培の経験がなく、栽培に関する基本的な知識や技術が不足していることから、関係機関と連携を強化し、栽培技術の習得に向けた支援を展開しています。

#### <取組の結果>

- ① 適期栽培管理を指導する展示ほの設置とともに、延べ70名に対して、主要作業に合わせた栽培講習会を実施したことで、適期管理の必要性について生産者の理解が深まりました。
- ② さらに技術習得が必要な20人に対して個別に巡回し、延べ22回、栽培技術の要点を指導しました。
- ③ 講習会の際などに、中泊町シャインマスカット生産者協議会の会員や作付希望者との間で情報共有が進んだことで、新規作付意欲が向上し、会員が設立当初の19名から27名に増加するとともに、生産者からの栽培管理に関する相談が増加しました。



栽培講習会

## 5 地域経営体の育成確保と共助・共存の農山漁村づくり

農村地域は人口減少と高齢化が進行し、耕作放棄地の増加や、集落機能の維持存続が危惧されています。

このような中、集落などの「地域」を一つの会社と見立てて経営していくという「地域経営」の考え方に立ち、地域の農林水産業の中核を担う経営体（地域経営体）を対象に、経営力の強化と地域活動の促進を支援しました。

また、関係機関と連携し、共助・共存の農山漁村づくりの意識啓発に取り組みました。

### <取組の結果>

- ①スマート農機導入による省力化や販売方法の多様化、常時雇用の拡大や農福連携、地域の後継者育成など、地域経営体の取組が進みました。
- ②県補助事業で機械を導入した地域経営体が、稲わら収集やすき込み面積の拡大、枝豆の産地育成に取り組みました。
- ③五所川原市三好地区住民による話合いの結果、新たに「三好をあじあう会」が結成されました。当会メンバーの働きかけによって、若者が集まる地域イベントや、中止が決まっていた三好地区住民協議会主催の「三好コミセン祭り」の復活など、地域活性化に向けた取組が行われました。



三好地区住民による話合い

## 6 地域を支える農山漁村女性起業の推進

西北管内の農山漁村女性による加工、産直などの起業活動は、地域経済の活性化や女性の社会参画、地域貢献にも寄与しています。一方、各組織では高齢化対策、魅力ある商品や体験メニューづくり、起業開始時の収益確保など、段階に応じた支援が必要となっています。また、人口減少社会が進む中で、地域において様々な共助の仕組みづくりが急務となっています。

このため、女性起業家への経営力強化に向けた支援と地域貢献活動を持続的に展開できる起業家の育成に取り組んでいます。

### <取組の結果>

- ① 女性起業活動の実態調査を行い、個々の課題や今後の支援策を整理しました。
- ② インボイス制度を学ぶ講座を開催し、女性起業家の経営力向上を図りました。また、女性起業家の新たな取組開始に向けて、試験研究機関と連携した技術指導や補助事業の活用、事例紹介などの個別指導により、新商品の販売など3件の新たな取組が始まりました。
- ③ 郷土料理の活用に意欲的な女性起業家を対象に、他地域の優良事例や料理技術を学ぶ研修会を開催したほか、地域課題の解決に取り組む女性起業家に対して、高齢者支援などのモデル実証活動の運営支援を行ったところ、地域活動を担う新たな女性組織が結成されました。



郷土料理を学ぶ女性起業家



**令和4年度あおもりの旨い米グランプリ「まっしぐら」の部 グランプリ受賞  
(鶴田町 須藤 聖司氏)**

鶴田町 須藤聖司氏が「まっしぐら」の部でグランプリを獲得しました。  
経営類型は水稻、大豆とりんごの複合型で、水稻では長年、「つがるロマン」と「まっしぐら」の生育観測ほを担当しています。  
須藤氏は、健苗育成に努め早期に分げつを確保すること、食味向上を目指して無理のない施肥を心がけるなどにより、受賞に至りました。



受賞式（手前左が須藤聖司氏）

**第50回全国豆類経営改善共励会 農林水産大臣賞 受賞（つがる市 野呂 修聖氏）**

つがる市の野呂修聖氏は、大豆を経営の柱とし、大豆・水稻・ブロッコリーのブロックローテーション（令和3年は大豆12ha、水稻12ha、ブロッコリー0.7ha）で大豆の多収・安定生産に取り組んでいます。  
生産面では、ほ場の排水性向上、土づくりを徹底しており、耕起作業は、スタブルカルチャー・アッパーロータリー体系とし、初期生育の確保と抑草効果を向上させ、多収につなげています。  
販売面では、JA出荷のほか、実需者との契約栽培等、販路の多角化を進めています。  
これらの取り組みが他の模範となりうるものと高く評価され、農林水産大臣賞を受賞されました。



農林水産大臣賞受賞式（東北農政局青森県拠点）  
野呂修聖氏（中央）と妻の貴子さん

**令和4年度「青森県攻めの農林水産業賞」収益力強化部門 奨励賞 受賞  
(板柳町 ゆうきアップル株式会社 代表取締役 佐藤 利光氏)**

板柳町のゆうきアップル株式会社は、労働力18人、経営規模はりんご7.5haで、結果樹面積の7割に当たる約5haで有袋栽培を実施しています。また、無袋栽培では、生産技術の工夫や光センサーを活用し、糖度保証を行い直接販売しています。  
農地集積による規模拡大を図りながら、有袋栽培による高品質安定生産を経営の柱とし、非農家出身の就農希望者の受入れにも積極的に取り組んでいる点が評価されました。



授賞式で知事と記念撮影する佐藤利光氏